

二条大麦有望系統「ニューサチホゴールド」について

1 来歴

- (1) 育成地 栃木県農業試験場
- (2) 交配組み合わせ 「大系 LM1」 × 「サチホゴールド」 (その後「サチホゴールド」を連続5回戻し交配)

2 特徴

- (1) ビール醸造用として利用が期待される二条大麦である。
- (2) 「彩の星」に比べ出穂期は同程度、成熟期は1日程度遅い。
- (3) 「彩の星」に比べ、稈長、穂長はやや長く、穂数は同程度。
- (4) 「彩の星」に比べ、千粒重は同程度、収量はやや多い。
- (5) 原麦リポキシゲナーゼ (lox-1) (ビール中の脂質を酸化させ、ダンボール臭と呼ばれる不快臭の発生や泡持ち低下の原因となる酵素) を欠失し、ビールの香味安定が良い。
- (6) 栃木県では、(5) 以外の特性が同等な「サチホゴールド」から、「ニューサチホゴールド」に平成30年播より全面切り替え。

表 奨励品種決定調査結果(平成23、24、29年播の平均)

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	整粒重 (kg/a)
ニューサチホゴールド	4/4	5/21	85	5.9	862	47.9	55.5
彩の星	4/4	5/20	81	5.7	854	47.2	52.1

注) 整粒重は2.5mm篩選による

3 平成30年播(平成31年産)の取り組み

奨励品種決定現地調査(2年目)を県内3カ所で行い、現地適応性を検討中。

4 その他

現在、本県のビール麦はサッポロビール社のみでの取引だが、ビール麦生産を維持、拡大していくためには複数社との取引が望ましい。現在採用している「彩の星」はサッポロビール社育成で他社との取引が難しいことから、複数社との取引を見据え、栃木県育成品種「ニューサチホゴールド」について現地適応性を検討している。なお、前年度、栃木県育成二条大麦の「サチホゴールド」を有望系統として紹介したが、「サチホゴールド」と栽培性が同様に品質が良く、主産地の栃木県において切り替える「ニューサチホゴールド」を有望とする。



「ニューサチホゴールド」の
草姿、穂型、粒形
(栃木県農業試験場 HP より)